

令和7年度

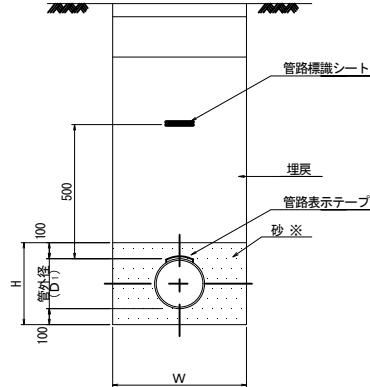
標 準 構 造 図

岡崎市上下水道局上下水道部下水道工事課

標準構造図・目次

図面番号	図面名称	公社図面番号(参考)
001	土工・硬質塩化ビニル管	108・202
002	土工・鉄筋コンクリート管	101・202
101	0号組立マンホール標準図	308
102	1号組立マンホール標準図	309
103	2号組立マンホール標準図	310
104	馬蹄・楕円形組立マンホール標準図	312
105-1	下水道用硬質塩化ビニル製小型マンホール	318
105-2	下水道用硬質塩化ビニル製小型マンホール(落差点)	321
106	副管工詳細図・Aタイプ	314-1
107-1	副管工詳細図	
111	1号組立マンホール標準図(レジンコンクリート製)	
112	2号組立マンホール標準図(レジンコンクリート製)	
113	3号組立マンホール標準図(レジンコンクリート製)	
201-1	φ 200 公共樹設置標準図 取付管径:分流汚水区域 φ 100	
201-2	φ 200 公共樹設置標準図(取付管立ち上がり) 取付管径:分流汚水区域 φ 100	
201-3	φ 200 公共樹設置標準図 取付管径:合流区域 φ 150(100)	
213	雨水取付管標準図(取付管 φ 150)	205
301	アルミ(軽量鋼)矢板土留設置工標準図	
401	舗装復旧工詳細図・国県道	502・503
401-1	舗装復旧工詳細図・国県道(乗入部)	
402	舗装復旧工詳細図・市道	

土工・硬質塩化ビニル管



寸法数量表

(単位: mm)

管径 (D)	管外径 (D _i)	基礎高 (H)	素掘(1.5m以下:直掘)				アルミ(軽量鋼)矢板			
			掘削幅 W				掘削幅 W			
			人力	BH0.13	BH0.28	BH0.45	人力	BH0.13	BH0.28	BH0.45
150	165	370	550	550	600	750	800	900	1050	1200
200	216	420	600	600	600	750	850	900	1050	1200
250	267	470	650	650	650	750	900	900	1050	1200
300	318	520	700	700	700	750	950	950	1050	1200
350	370	570	750	750	750	750	1050	1050	1050	1200
400	420	620	800	800	800	800	1100	1100	1100	1200
450	470	670	850	850	850	850	1150	1150	1150	1200

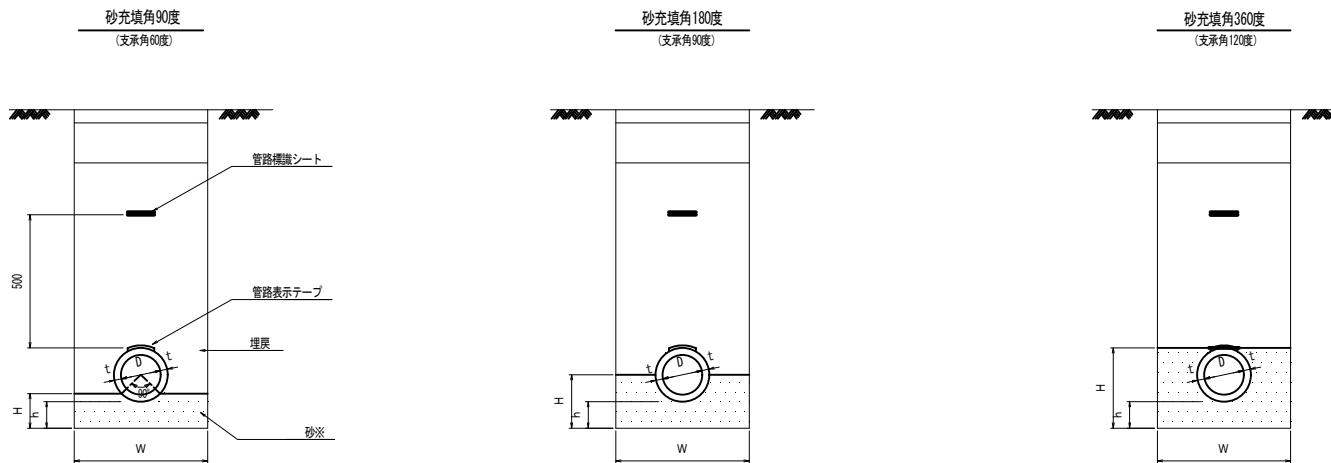
$$\text{砂量} = W \times H - \pi / 4 \times D_i^2$$

注: 上記標準図は砂基礎(砂充填角度90°、180°、360°)に砂埋戻し(管上10cm)を含む。

※: 改良土、再生砂等、砂と同等品を含み、使用にあたっては、リサイクルの観点に留意する。

図名	土工・硬質塩化ビニル管			
分類	D	図番	001	
改訂年月日	平成30年4月1日			

土工・鉄筋コンクリート管



寸法数量表

呼び径 D	管厚 t	h	管外径 D1	砂基基礎 H			素掘(1.5m以下:直掘)			アルミ(軽量鋼)矢板				
				90°	180°	360°	人力	B H0.13	B H0.28	B H0.45	人力	B H0.13	B H0.28	B H0.45
150	26	100	202	130	210	310	600	600	600	750	850	900	1,050	1,200
200	27	100	254	140	230	360	650	650	650	750	900	900	1,050	1,200
250	28	100	306	150	260	410	700	700	700	750	950	950	1,050	1,200
300	30	100	360	160	280	460	750	750	750	750	1,000	1,000	1,050	1,200
350	32	100	414	170	310	520	800	800	800	800	1,050	1,050	1,050	1,200
400	35	150	470	220	390	620	850	850	850	850	1,150	1,150	1,150	1,200
450	38	150	526	230	420	680	900	900	900	900	1,200	1,200	1,200	1,200
500	42	150	584	240	450	740	—	—	—	—	1,250	1,250	1,250	1,250
600	50	150	700	260	500	850	—	—	—	—	1,350	1,350	1,350	1,350
700	58	200	816	320	610	1,020	—	—	—	—	1,450	1,450	1,450	1,450
800	66	200	932	340	670	1,140	—	—	—	—	1,600	1,600	1,600	1,600
900	75	200	1,050	360	730	1,250	—	—	—	—	1,700	1,700	1,700	1,700
1,000	82	200	1,164	380	790	1,370	—	—	—	—	1,800	1,800	1,800	1,800

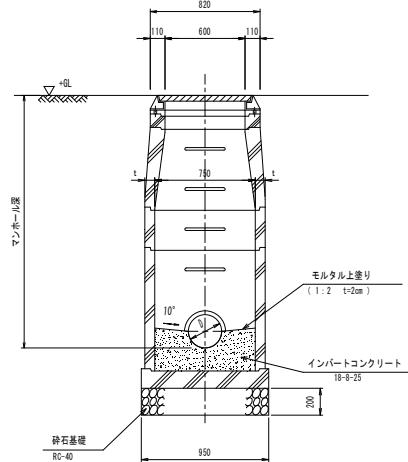
$$\text{砂量} = W \times H - [\frac{D1^2}{4} \times \pi \times (\text{充填角 } \theta / 360) - D1/2 \times \cos(\theta/2) \times D1 \times \sin(\theta/2) \times 1/2]$$

※: 改良土、再生砂等、砂と同等品を含み、使用にあたっては、リサイクルの観点に留意する。

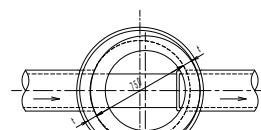
図名	土工・鉄筋コンクリート管		
分類	D	図番	002
改訂年月日	平成22年4月1日		

0号組立マンホール標準図

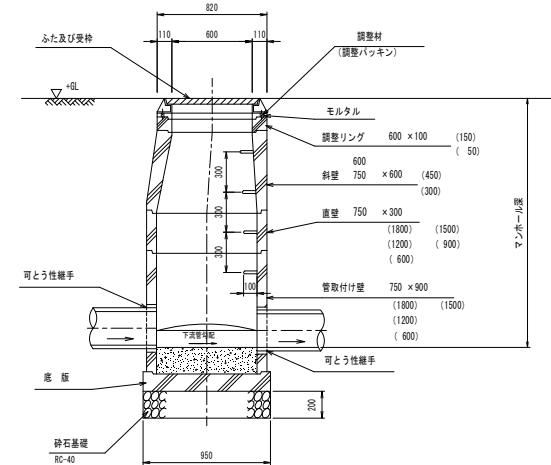
横断面図



平面図



縦断面図



底部工材料表

1箇所当たり

種別	形状・寸法	計算式	単位	数量
碎石基礎	RC-40	0.95×0.95	m^2	0.90
コンクリート	18-8-25 VU ϕ 150		m^3	0.09
	18-8-25 VU ϕ 200		m^3	0.09
モルタル上塗り工	t=2cm VU ϕ 150		m^2	0.72
			m^3	0.01
	t=2cm VU ϕ 200		m^2	0.72
			m^3	0.02

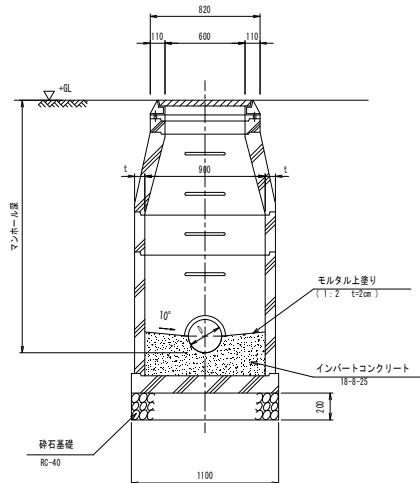
※1 その他の管径は別途考慮する。

注：壁厚tは「JSWAS・A-11」を参照のこと

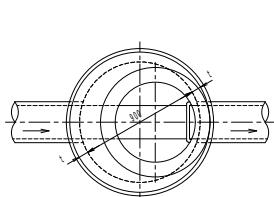
図名	0号組立マンホール標準図		
分類	M	図番	101
改訂年月日	平成 30 年 4 月 1 日		

1号組立マンホール標準図

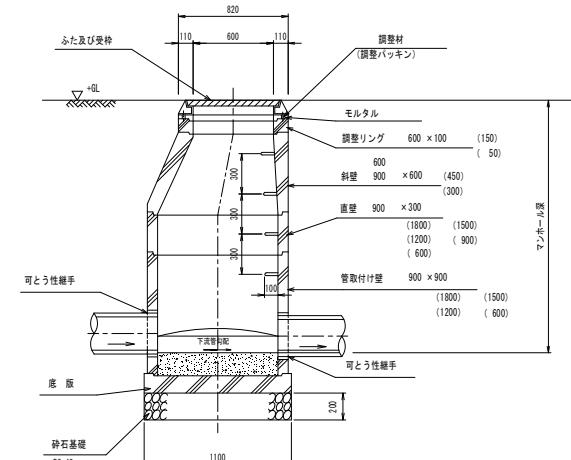
横断面図



平面図



縦断面図



底部工材料表

1箇所当たり

種別	形状・寸法	計算式	単位	数量
碎石基礎	RC-40	1.10×1.10	m^2	1.21
コンクリート	18-8-25 VU $\phi 150$		m^3	0.13
	18-8-25 VU $\phi 200$		m^3	0.14
モルタル上塗り工	$t=2cm$ VU $\phi 150$		m^2	0.97
	$t=2cm$ VU $\phi 200$		m^2	0.02
	$t=2cm$ VU $\phi 200$		m^3	1.06
			m^3	0.02

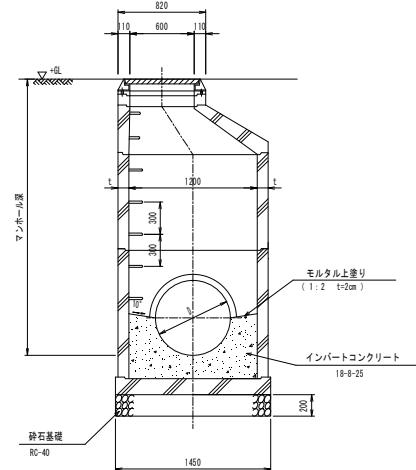
※1 その他の管径は別途考慮する。

注: 壁厚は「JSWAS-A-11」を参照のこと。

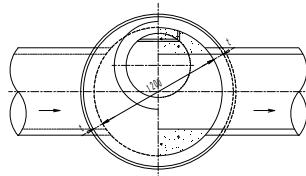
図名	1号組立マンホール標準図		
分類	M	図番	102
改訂年月日	平成 30 年 4 月 1 日		

2号組立マンホール標準図

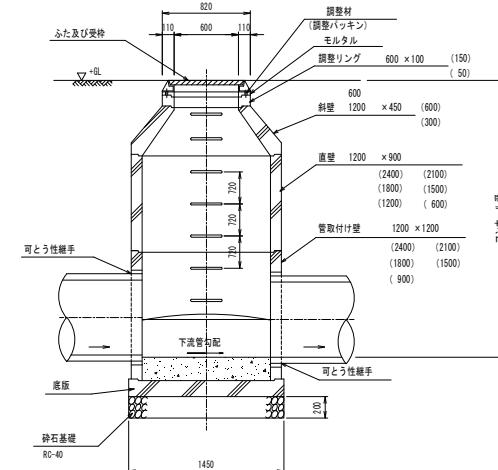
横断面図



平面図



縦断面図



底部工材料表

1箇所当たり

種別	形状・寸法	計算式	単位	数量
碎石基礎	RC-40	1.45×1.45	m^2	2.10
コンクリート	18-8-25 VU $\phi 700$		m^3	0.35
	18-8-25 VU $\phi 800$		m^3	0.34
モルタル上塗り工	$t=2cm$ VU $\phi 700$		m^2	2.98
	$t=2cm$ VU $\phi 800$		m^2	0.06
	$t=2cm$ VU $\phi 700$		m^3	3.24
	$t=2cm$ VU $\phi 800$		m^3	0.06

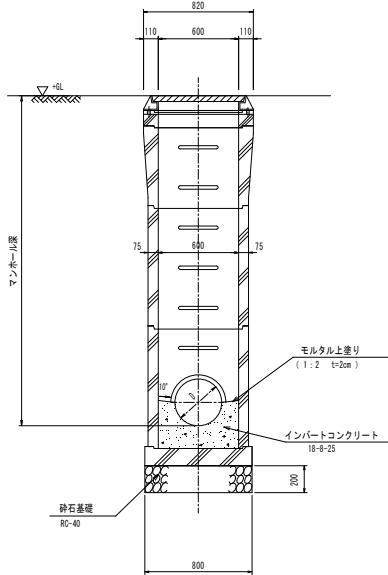
※1 その他の管径は別途考慮する。

注: 壁厚t:1・tは「JSWAS-A-11」を参照のこと。

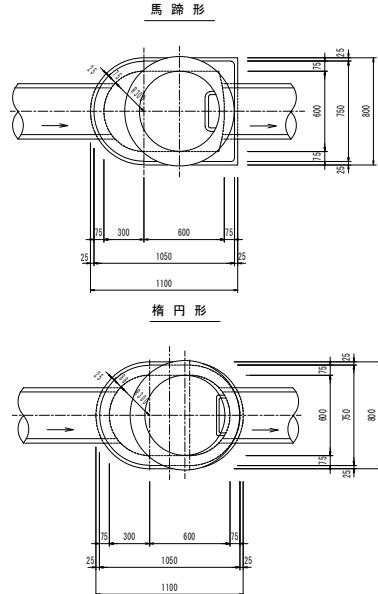
図名	2号組立マンホール標準図		
分類	M	図番	103
改訂年月日	平成 30 年 4 月 1 日		

馬蹄・楕円形組立マンホール標準図

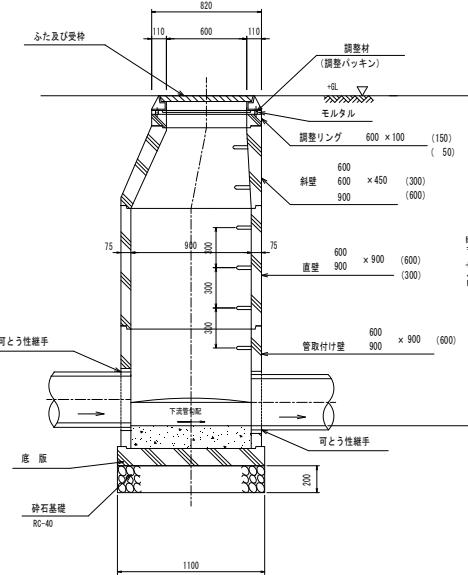
横断面図



平面図



縦断面図



底部工材料表(椭円人孔)

種別	形状・寸法	計算式	単位	数量
碎石基礎	RC-40	0.80×1.10	m^2	0.88
コンクリート	18-8-25 VUφ150		m^3	0.09
	18-8-25 VUφ200		m^3	0.09
モルタル上塗り工	t=2cm VUφ150		m^2	0.79
			m^3	0.02
	t=2cm VUφ200		m^2	0.89
			m^3	0.02

※1 その他の管径は別途考慮する。

底部工材料表(馬蹄人孔)

種別	形状・寸法	計算式	単位	数量
碎石基礎	RC-40	0.80×1.10	m^2	0.88
コンクリート	18-8-25 VU ϕ 150		m^3	0.10
	18-8-25 VU ϕ 200		m^3	0.10
モルタル上塗り工	t=2cm VU ϕ 150		m^2	0.83
			m^3	0.02
	t=2cm VU ϕ 200		m^2	0.93
			m^3	0.02

※1 その他の管径は別途考慮する。

(参考図)

図名	馬蹄・楕円形組立マンホール標準図		
分類	M	図番	104
改訂年月日	平成 30 年 4 月 1 日		

下水道用硬質塩化ビニル製小型マンホール

下水道用硬質塩化ビニル製小型マンホール
JSWAS K-9-2008
JSWAS G-3-2005

表-1 インパート部の種類

設置箇所	種類	路号	マンホール径	管径
起点	90度曲り ほか	90L右, 90L左 ほか	300	150, 200, 250
中間点	ストレート	ST	300	150, 200, 250

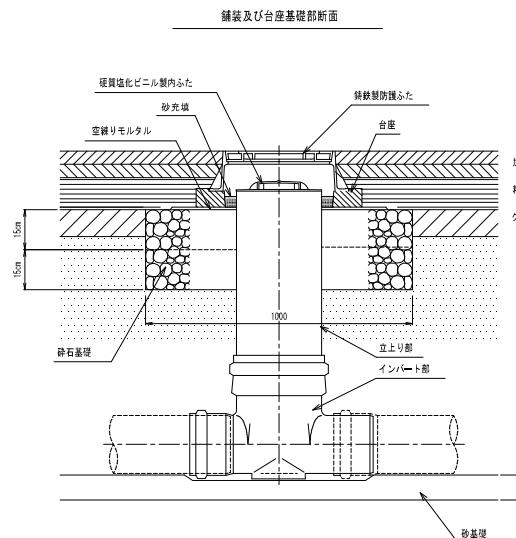
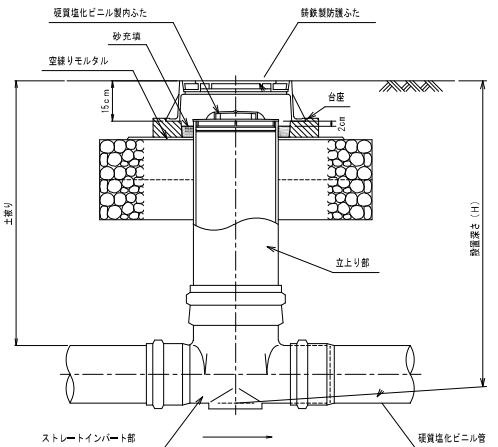
表-2 立上り部の種類

種類	路号	呼び径	備考
差し口形立上り部	MVU	300	ゴム輪受口形インパート部用
ゴム輪受口形立上り部	MVR	300	差し口形インパート部用

設置例

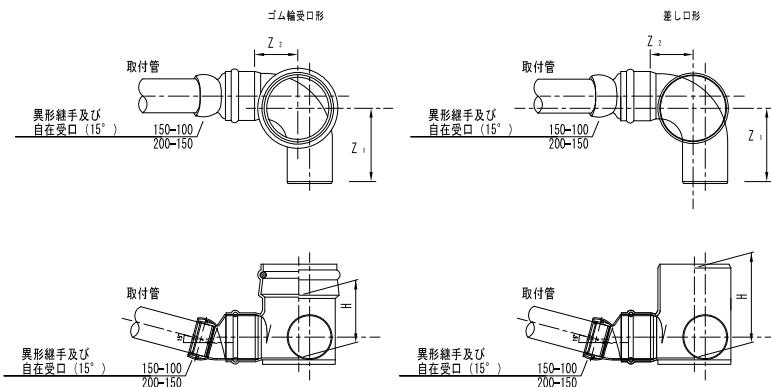
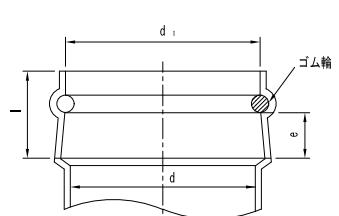
小型マンホール設置例を次図に示す。

ストレートインパート部の設置例



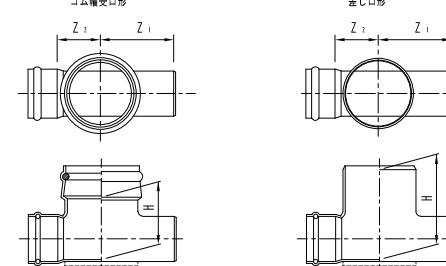
マンホール径	防護蓋 (栓)	台座 (栓)
300	1.0	1.0

図-1 立上り接合部ゴム輪受口寸法 (共通)



※ 異形継手及び自在受口 (15°) について
同等の性能を有する構造のもの(自在受口異形継手など)を使用しても良い。
※ 本管径が200mmかつ取付管径が100mmの場合は
偏心ソケットなどを追加し、取付管を接続すること。

図-3 ストレート (路号 ST)



※ 鋼鉄蓋について
鋼鉄蓋の絵柄については指定なし。
ただし、公共樹用 (ミカワクロマツ) の蓋は使用しない。

図名	下水道用硬質塩化ビニル製小型マンホール		
分類	M	図番	105-1
改訂年月日	令和 2 年 4 月 1 日		

下水道用硬質塩化ビニル製小型マンホール(落差点)

下水道用硬質塩化ビニル製小型マンホール
JSWAS K-9-2008
JSWAS G-3-2005

表-1 インパート部の種類

設置箇所	種類	路号	マンホール径	管径
落差点	起点型ドロップ	KDR	300	150, 200, 250
勾配変化点	全種類	—	300	150, 200, 250

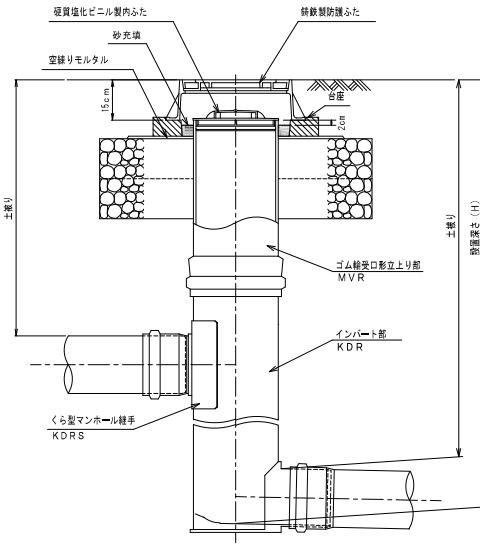
表-2 立上り部の種類

種類	路号	呼び径	備考
ゴム輪受口形立上り部	MVR	300	差し口形インパート部用

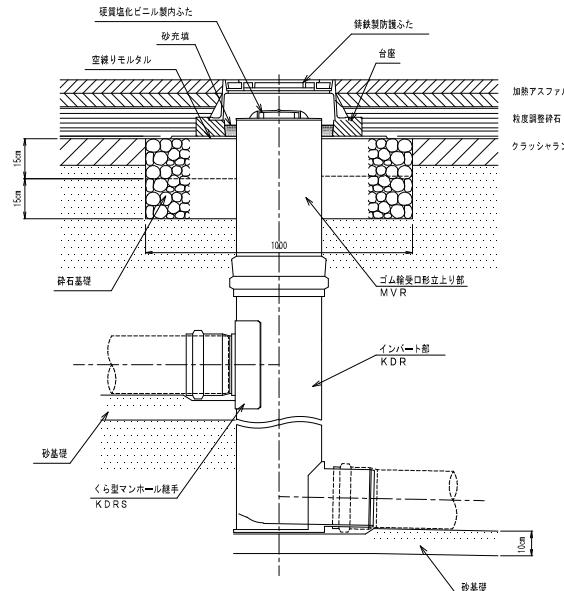
設置例

小型マンホール設置例を次図に示す。

起点ドロップ型インパート部の設置例



舗装及び台座基礎断面

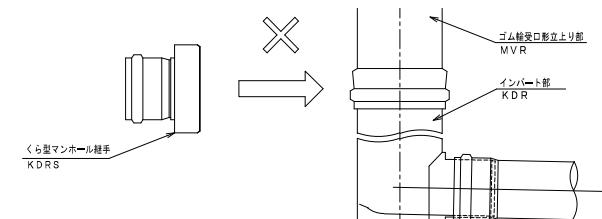


※：防護ふた設置は碎石で微調整がしにくい場合は、空縫リモルタルを薄く敷均して行う。
※：軟弱な地盤では、底面の一部を碎石で置き換え、支持力を増してから砂基礎(10cm)を設ける。

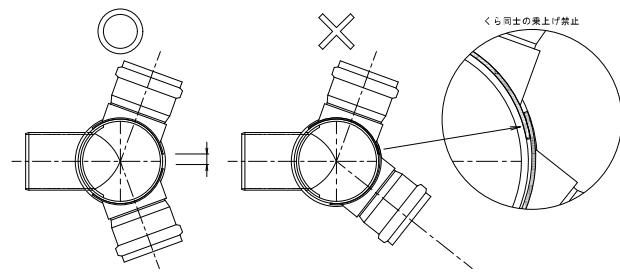
施工上の注意点

※：落差点において起点型(KT)及びドロップ型(DR)は使用しないこと

※：くらを切削加工しないこと



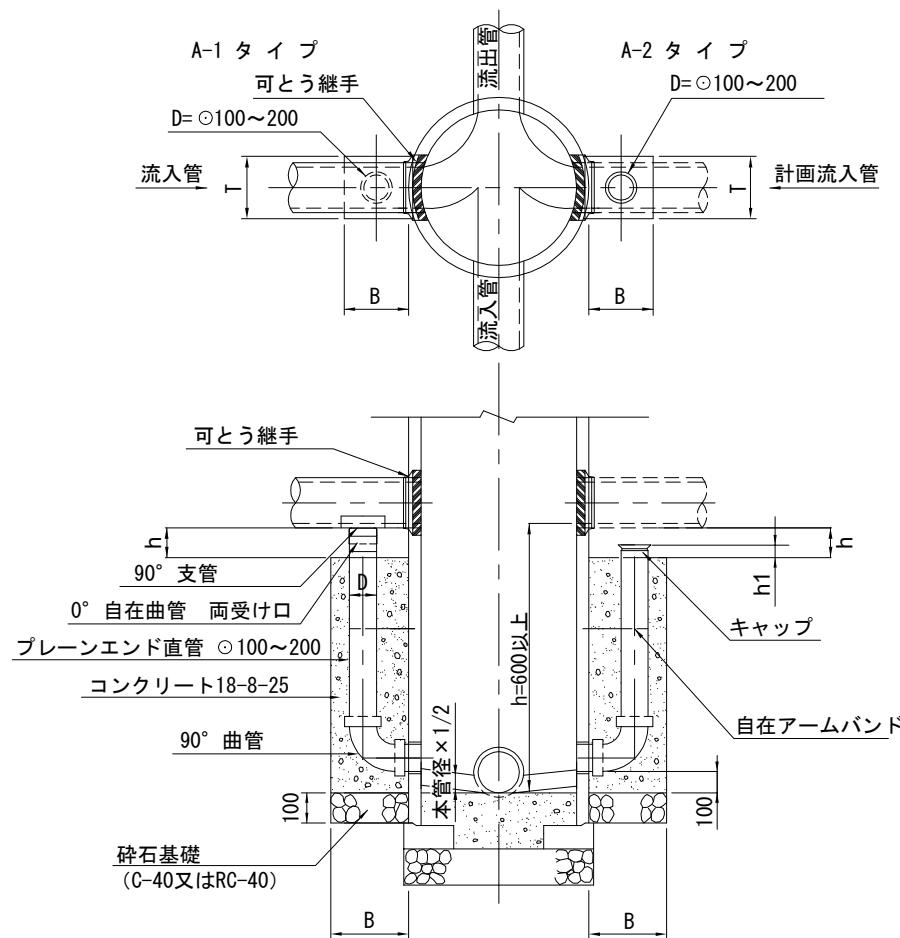
※：立上り接合部にKDRSを取り付けないこと



※：1箇所のマンホールに取付可能なKDRSは基本的に2個までとし、くら同士が乗り上げたりしないよう取付ける

図名	下水道用硬質塩化ビニル製小型マンホール(落差点)		
分類	M	図番	105-2
改訂年月日	令和3年10月1日		

組立マンホール用



副管工材料

1箇所当たり								
副管径 (mm)	段差 (cm)	型枠 (m ²)	コンクリート (m ³)	基礎工 (m ²)	プレーンエンド直管 (本)	90°曲管 (本)	0°自在曲管 (本)	カラー (本)
100	100	0.818	0.084	0.120	0.13	1	1	—
	150	1.368	0.138	0.120	0.25	1	1	—
	200	1.918	0.193	0.120	0.38	1	1	—
	250	2.468	0.248	0.120	0.50	1	1	—
150	100	0.804	0.091	0.150	0.10	1	1	—
	150	1.429	0.157	0.150	0.23	1	1	—
	200	2.054	0.227	0.150	0.35	1	1	—
	250	2.679	0.295	0.150	0.48	1	1	—
200	100	0.829	0.104	0.200	0.06	1	(1)	1
	150	1.529	0.182	0.200	0.19	1	(1)	1
	200	2.229	0.267	0.200	0.31	1	(1)	1
	250	2.929	0.349	0.200	0.44	1	(1)	1

自在曲管：括弧は片受け口の場合

※流入管が計画管の場合は90°支管は付けずキャップ止めとする。

アームバンドは必要に応じて使用（キャップ止めの場合等）する。

計画流入管のための副管は将来施工時、場合によりカットし接続する。

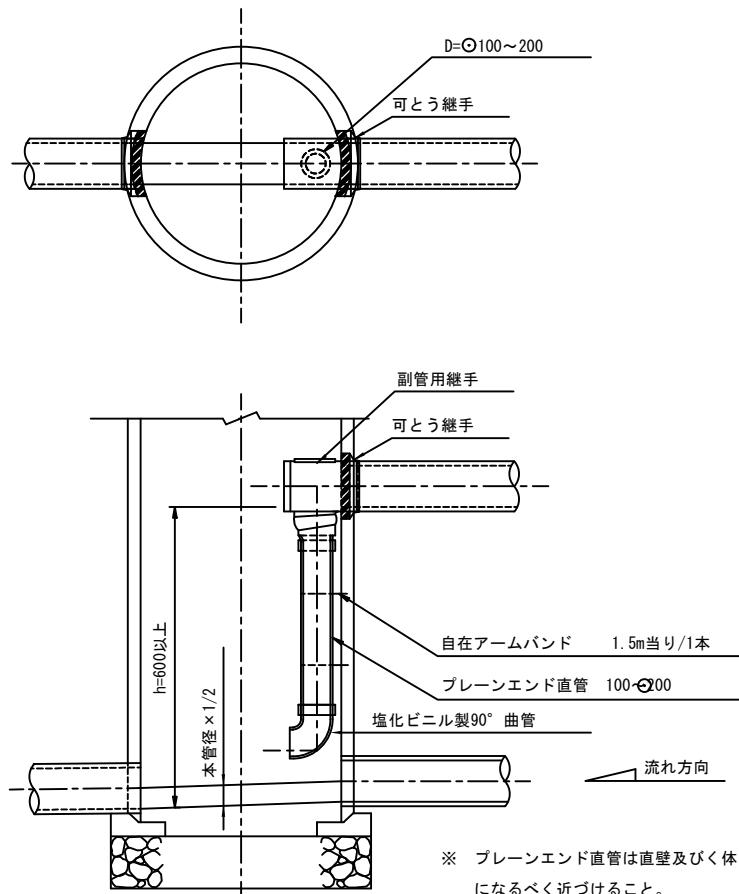
副管径Φ200mm場合は0度自在曲管（自在片受口）とカラーの組み合わせとする。

(本管ヒューム管、塩ビ管) 可とう性を持たせたもの

図名	副管工詳細図・Aタイプ		
分類	M	図番	106
改訂年月日	平成 20 年 3 月 26 日		

本管径	副管部			Co高	VU長さ
	D	B	T		
150	100	400	300	300	200
200	150	450	350	400	250
250~400	200	500	400	450	200

内副管タイプ



※ プレーンエンド直管は直壁及びくび体ブロック
になるべく近づけること。

※ 副管用継手は省スペース型のものとしてもよい。

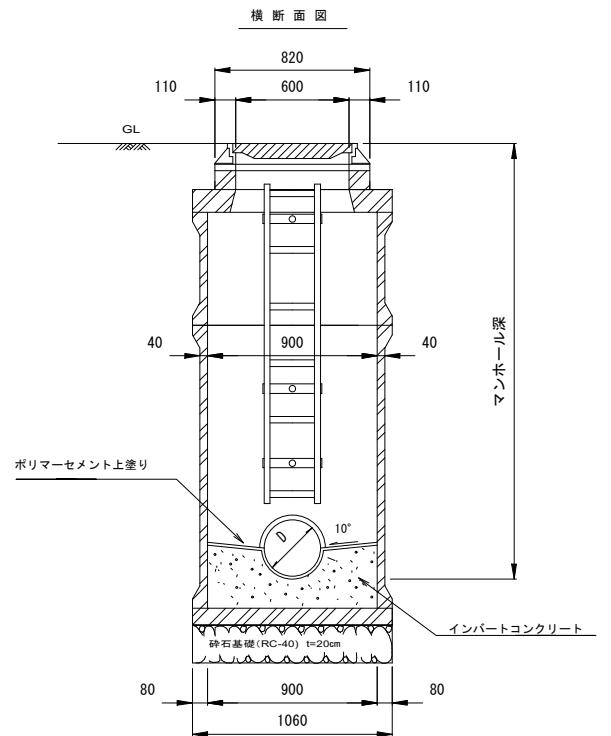
※ 内副管の設置下に本管流入がない場合は90°曲管を
インパートまで設置させる。

(単位: mm)

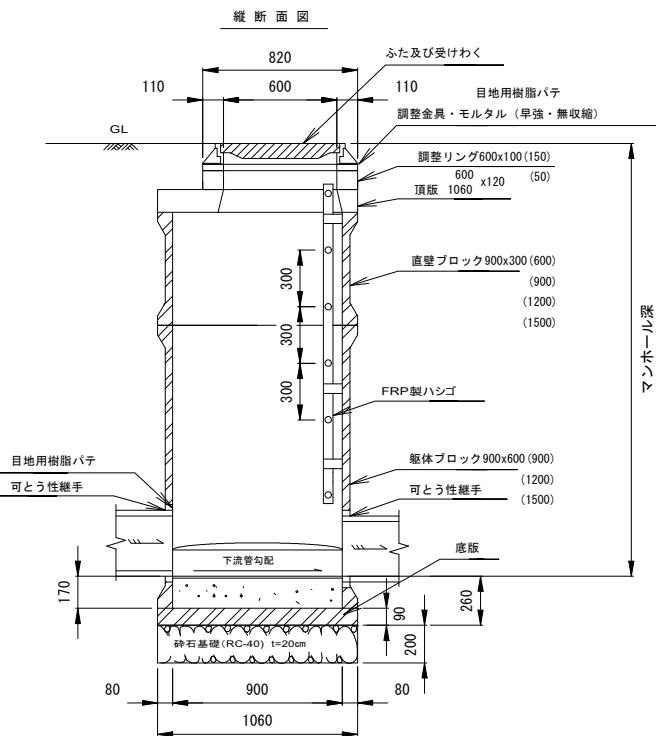
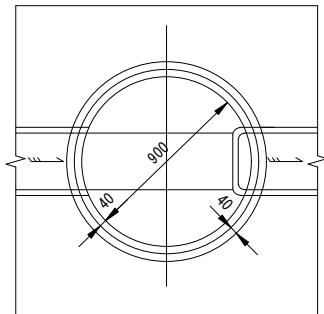
本管径	副管径
150	100
200	150
250	200

図名	副管工詳細図		
分類	M	図番	107-1
改訂年月日	令和7年4月1日		

1号組立マンホール標準図（レジンコンクリート製）



平面図



底部工材料表

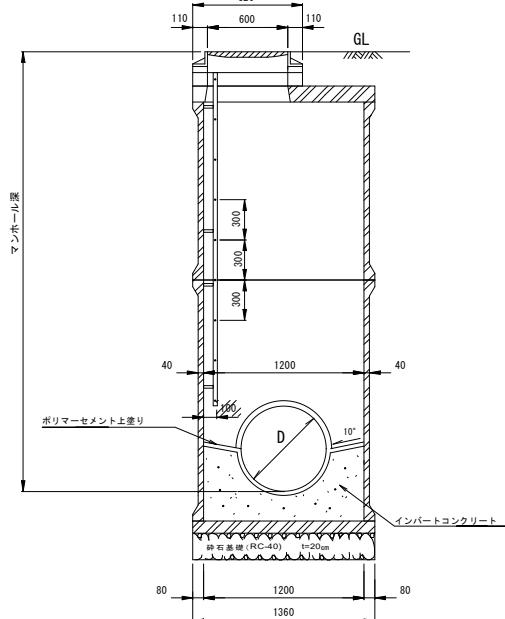
種別	形状・寸法	計算式	単位	数量
碎石基礎	RC-40	1.06×1.06	m ²	1.12
コンクリート	18-8-25 VUφ150		m ³	0.13
	18-8-25 VUφ200		m ³	0.14
ポリマーセメント 上塗り工	t=2cm VUφ150		m ²	0.97
	t=2cm VUφ200		m ³	0.02
			m ²	1.06
			m ³	0.02

※1 その他の管径は別途考慮する。

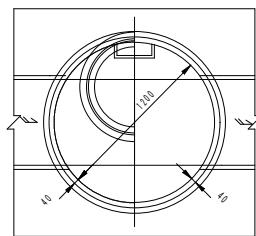
図名	1号組立マンホール標準図 (レジンコンクリート製)		
分類	M	図番	111
改訂年月日	平成 30 年 4 月 1 日		

2号組立マンホール標準図 (レジンコンクリート製)

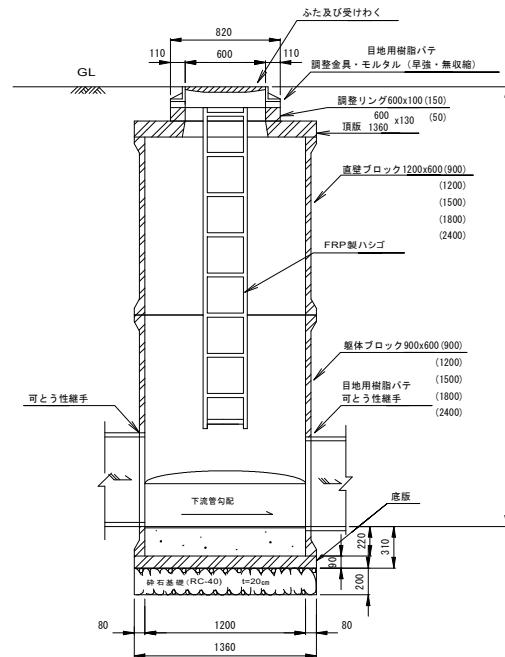
横断面図



平面図



縦断面図



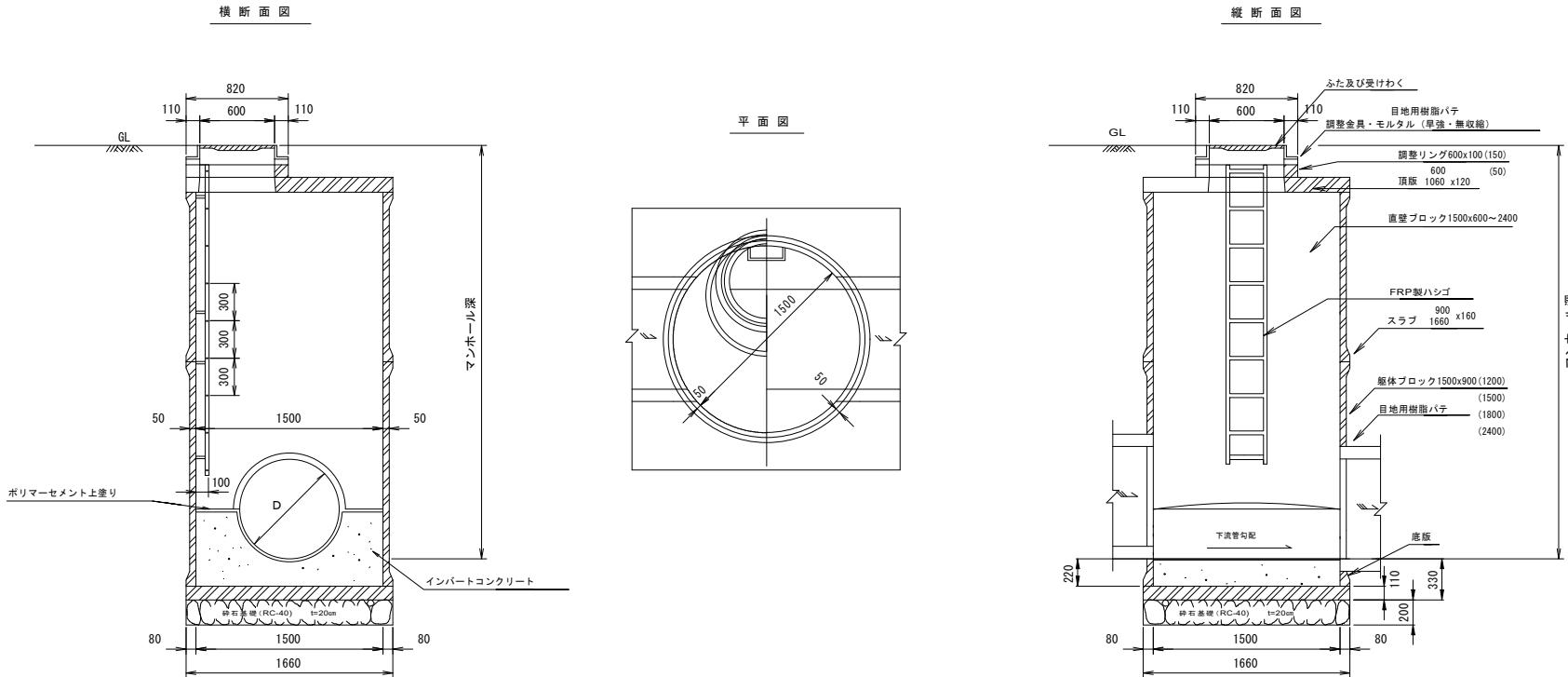
底部工材料表

種別	形状・寸法	計算式	1箇所当り	
			単位	数量
碎石基礎	RC-40	1.20×1.20	m^2	1.44
コンクリート	18-8-25 VU $\phi 700$		m^3	0.35
	18-8-25 VU $\phi 800$		m^3	0.34
ポリマーセメント 上塗り工	$t=2cm$ VU $\phi 700$		m^2	2.98
			m^3	0.06
	$t=2cm$ VU $\phi 800$		m^2	3.24
			m^3	0.06

※1 他の管径は別途考慮する。

図名	2号組立マンホール標準図 (レジンコンクリート製)		
分類	M	図番	111
改訂年月日	平成 30 年 4 月 1 日		

3号組立マンホール標準図（レジンコンクリート製）



底部工材料表

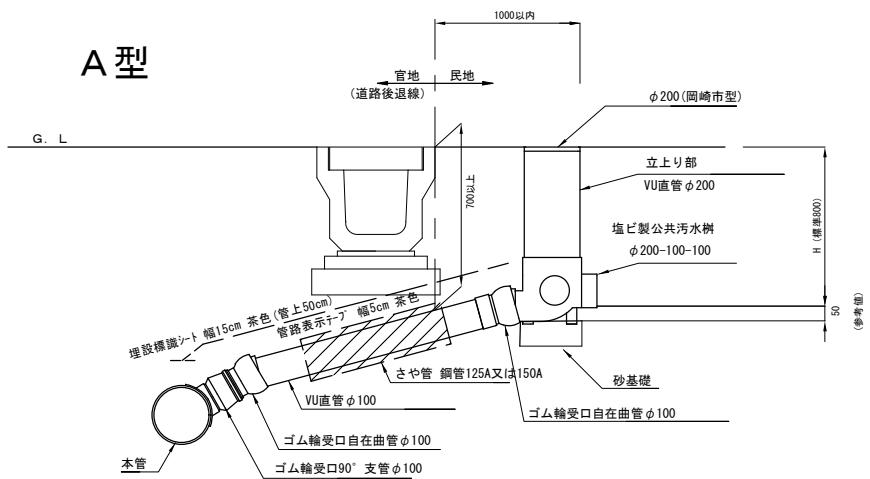
種別	形状・寸法	計算式	1箇所当り	
			単位	数量
碎石基礎	RC-40	1.66×1.66	m^2	2.76
コンクリート	18-8-25 VU ϕ 1000		m^3	0.58
	18-8-25 VU ϕ 1100		m^3	0.54
ポリマーセメント上塗り	$t=2cm$ VU ϕ 1000		m^2	5.05
			m^3	0.10
	$t=2cm$ VU ϕ 1100		m^2	5.37
			m^3	0.11

※1 その他の管径は別途考慮する。

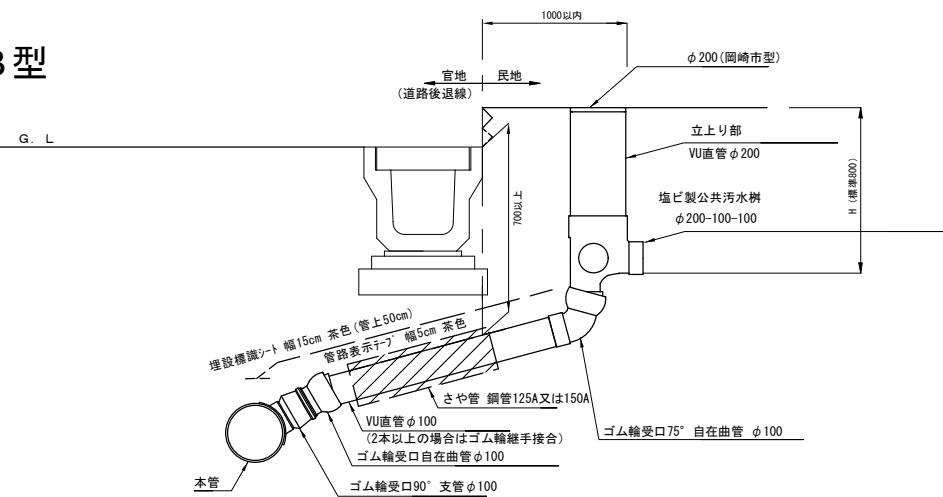
図名	3号組立マンホール標準図 (レジンコンクリート製)		
分類	M	図番	111
改訂年月日	平成 30 年 4 月 1 日		

【分流汚水区域】

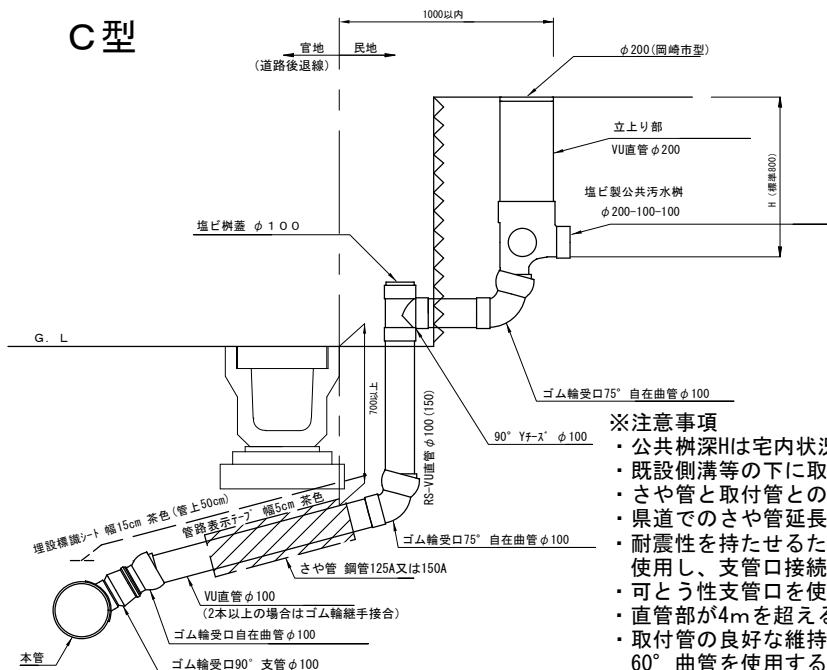
A型



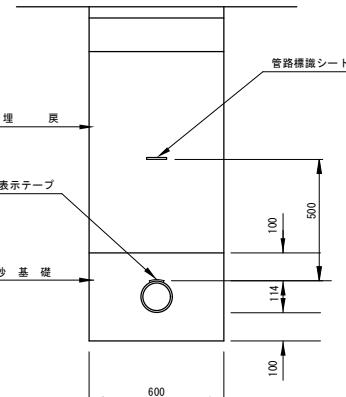
B型



C型



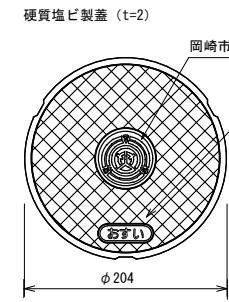
取付管標準断面
(本管土被り≤1.5m)



※注意事項

- 公共樹深Hは室内状況に応じた深さを選定すること。
- 既設側溝等の下に取付管を布設する場合は、たぬき堀りを行わず、さや管を設置すること。
- さや管と取付管との隙間には砂等を詰めること。
- 県道でのさや管延長は側溝両端から250mmの余裕長を持たせる。
- 耐震性を持たせるため、支管口及び公共樹の接続はゴム輪受口自在曲管を使用し、支管口接続部はゴム輪受口90°支管に自在曲管を接続すること。
- 可とう性支管口を使用する場合は、取付管口径を確保できる部材のみ使用すること。
- 直管部が4mを超える場合は、4mを超える毎にゴム輪接合を1箇所設けること。
- 取付管の良好な維持管理のため、曲管は45°以下の自在曲管又は60°曲管を使用すること。
- 自在曲管は5°以上鋭角側への曲げて使用とし、曲げ無し及び逆折れは排水の滞留が生じるため不可とする。
- 自在曲管の振れ角に余裕を持つこと。
- B型、C型の公共樹接続部は75°以下の自在曲管を使用すること。

φ200公共樹蓋（岡崎市型） φ300公共樹蓋（岡崎市型）



- ※必須事項
・蓋中央の市章
・「おすい」文字表記

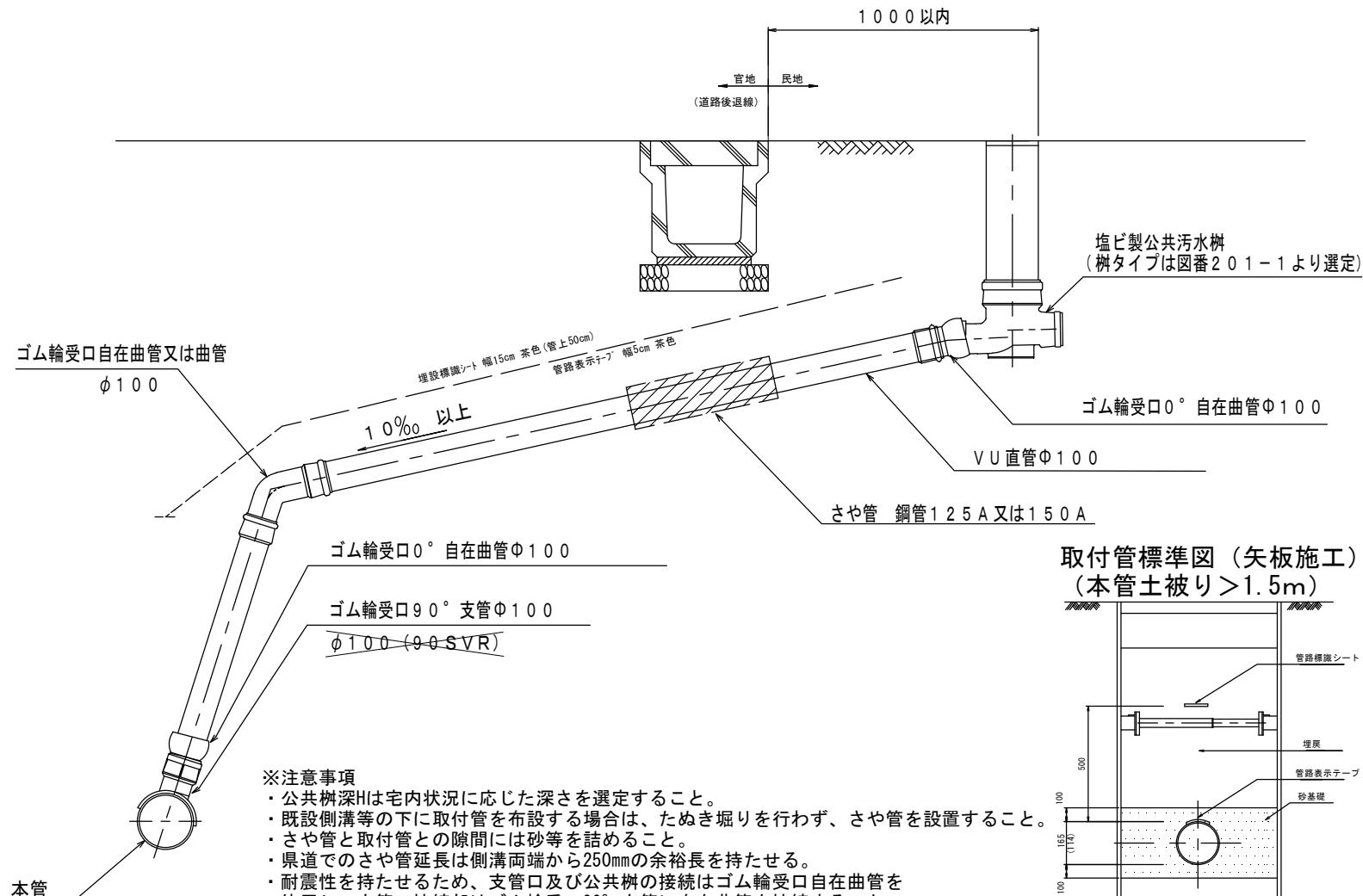


- ※必須事項
・蓋中央の市章
・「おすい」文字表記

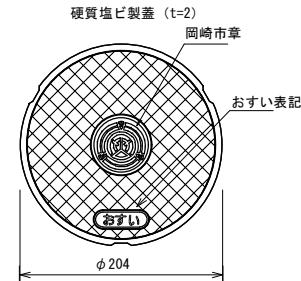
図名	φ200 公共樹設置標準図 取付管径：分流汚水区域中100		
分類	K	図番	201-1
改訂年月日	令和7年4月1日		

【分流汚水区域】

(取付管を立ち上げる場合)



φ200公共樹蓋 (岡崎市型)



※必須事項

- 蓋中央の市章
- 「おすい」文字表記

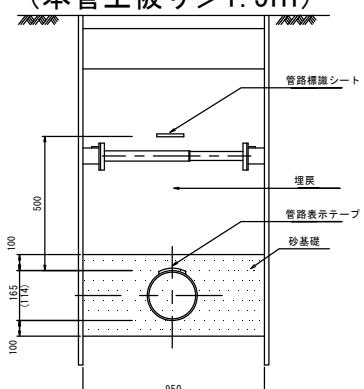
φ300公共樹蓋 (岡崎市型)



※必須事項

- 蓋中央の市章
- 「おすい」文字表記

取付管標準図 (矢板施工)
(本管土被り>1.5m)



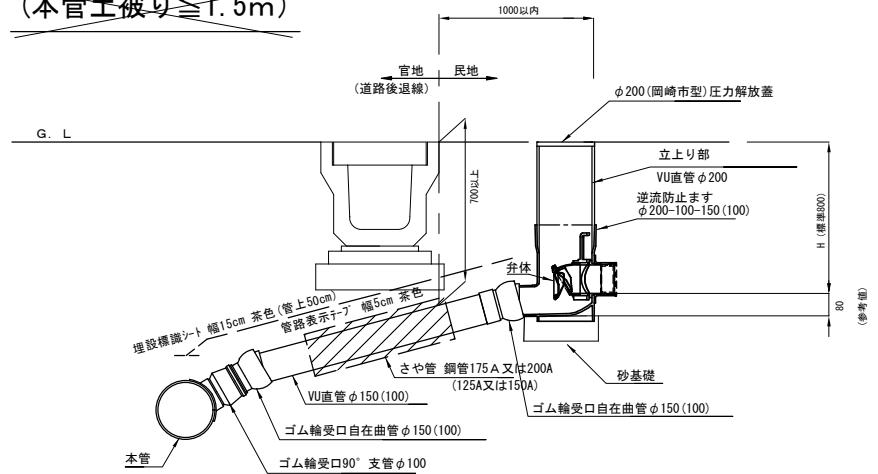
図名 φ200 公共樹設置標準図 (取付管立ち上がり)
取付管径: 分流汚水区域ø100

分類 K 図番 201-2

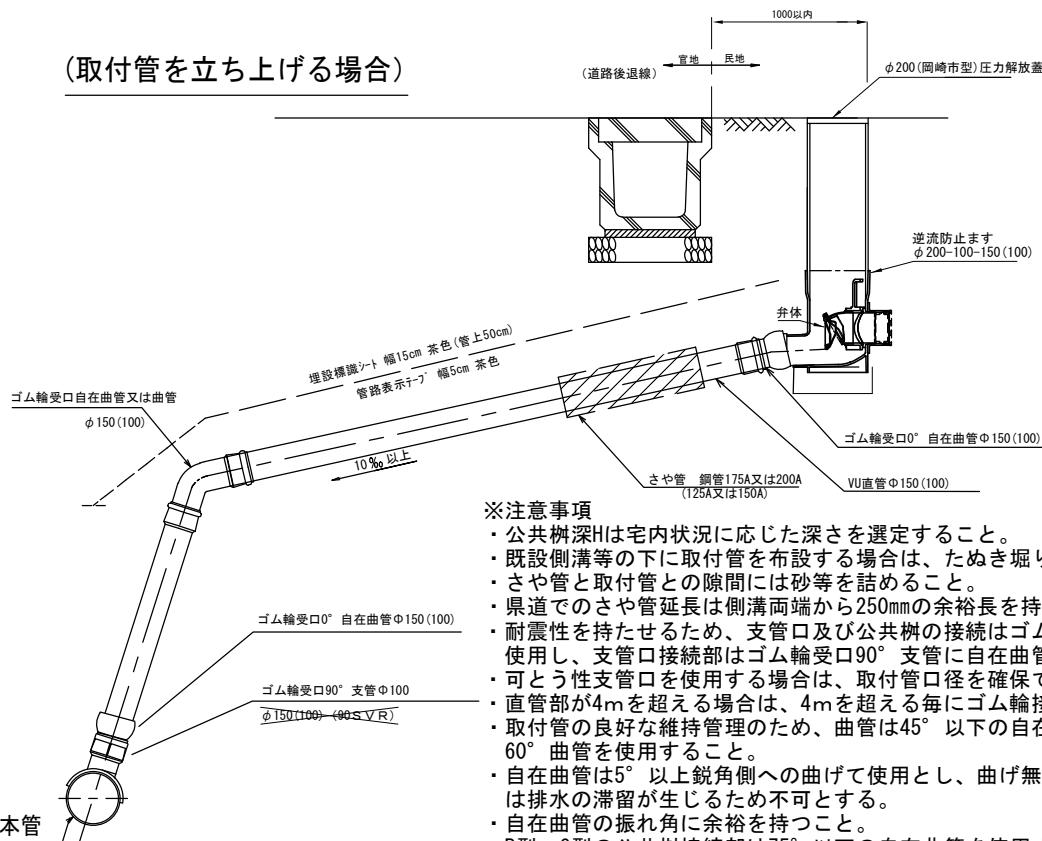
改訂年月日 令和7年4月1日

【合流区域】

(本管土被り $\leq 1.5m$)



(取付管を立ち上げる場合)



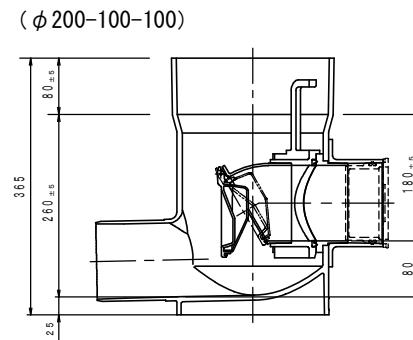
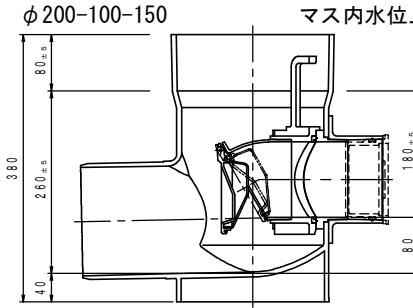
※注意事項

- 公共樹深Hは宅内状況に応じた深さを選定すること。
- 既設側溝等の下に取付管を布設する場合は、たぬき堀りを行わず、さや管を設置すること。
- さや管と取付管との隙間には砂等を詰めること。
- 県道でのさや管延長は側溝両端から250mmの余裕長を持たせる。
- 耐震性を持たせるため、支管口及び公共樹の接続はゴム輪受口自在曲管を使用し、支管口接続部はゴム輪受口90°支管に自在曲管を接続すること。
- 可とう性支管口を使用する場合は、取付管口径を確保できる部材のみ使用すること。
- 直管部が4mを超える場合は、4mを超える毎にゴム輪接合を1箇所設けること。
- 取付管の良好な維持管理のため、曲管は45°以下の自在曲管又は60°曲管を使用すること。
- 自在曲管は5°以上鋭角側への曲げて使用とし、曲げ無し及び逆折れは排水の滞留が生じるため不可とする。
- 自在曲管の振れ角に余裕を持つこと。
- B型、C型の公共樹接続部は75°以下の自在曲管を使用すること。 (φ150:合流区域内合流管渠) (φ100:合流区域内汚水管渠)

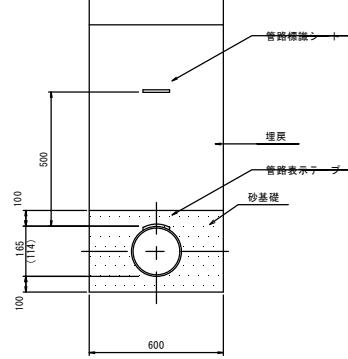
φ 200公共樹逆流抑止ます

【※必須事項】

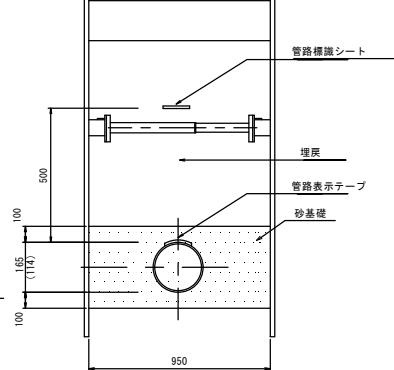
- 弁体について
通常時：開口構造
マス内水位上昇：閉塞構造



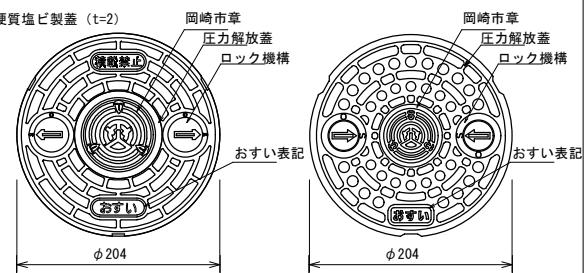
取付管標準断面 (本管土被り $\leq 1.5m$)



取付管標準図 (矢板施工) (本管土被り $> 1.5m$)



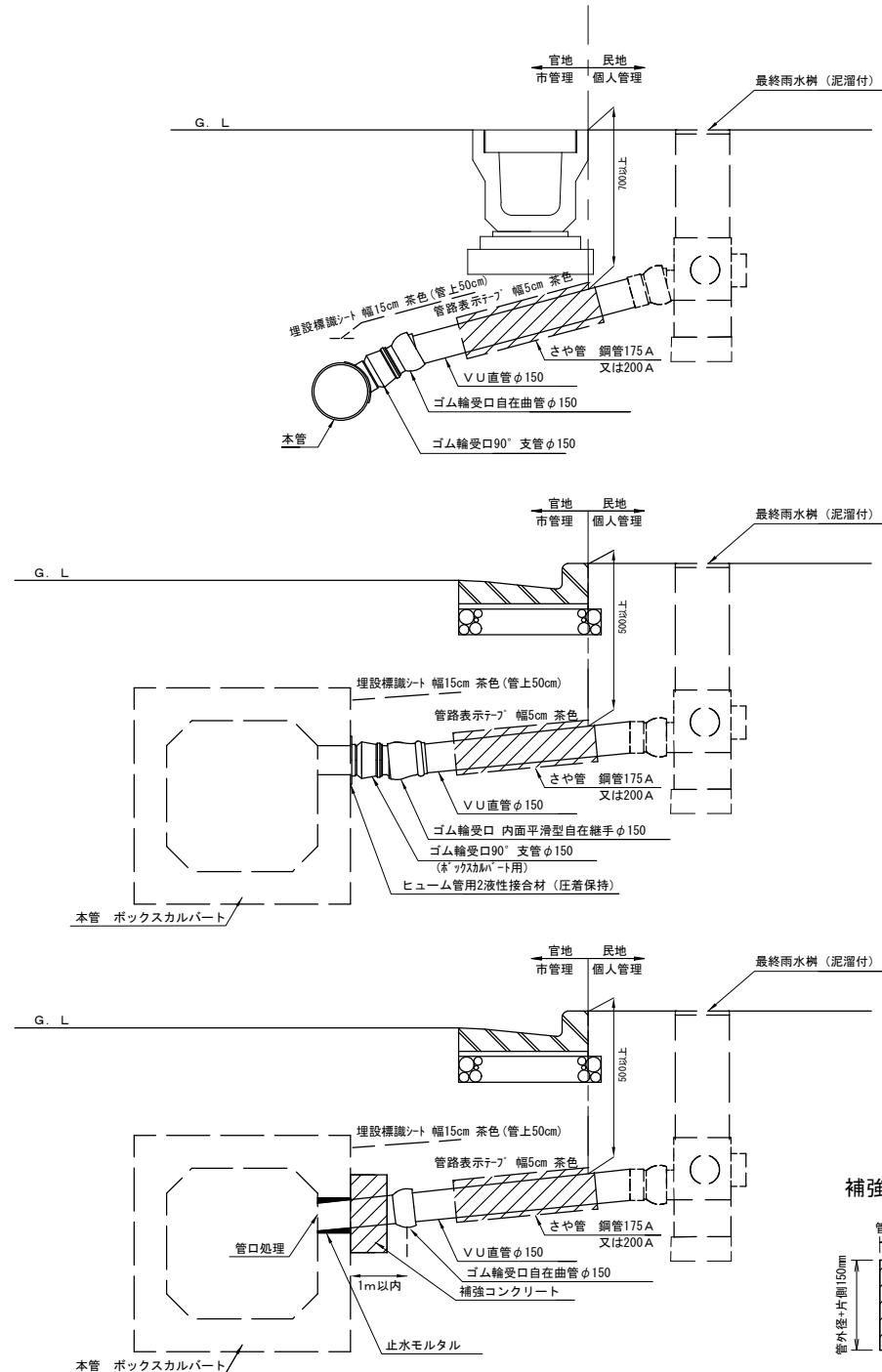
φ 200公共樹蓋 (岡崎市型)



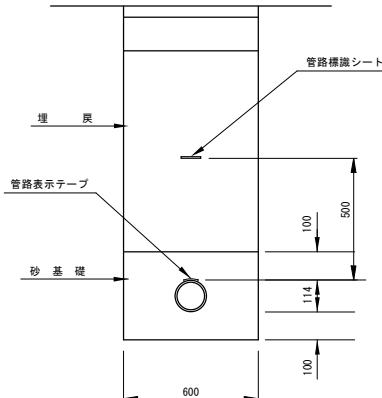
【※必須事項】

- 蓋中央の市章
- ・圧力開放蓋
- ・ロック機構
- ・「おしゃい」文字表記

図名	φ 200 公共樹設置標準図 取付管径：合流区域Φ150 (100)		
分類	K	図番	201-3
改訂年月日	令和 7 年 4 月 1 日		



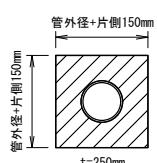
取付管標準断面
(本管土被り $\leq 1.5m$)



※注意事項

- 既設側溝等の下に取付管を布設する場合は、たぬき堀りを行わず、さや管を設置すること。
- さや管と取付管との隙間には砂等を詰めること。
- 県道でのさや管延長は側溝両端から250mmの余裕長を持たせる。
- 耐震性を持たせるため、支管口及び公共樹の接続はゴム輪受口自在曲管を使用し、支管口接続部はゴム輪受口90° 支管に自在曲管を接続すること。
- 可とう性支管口を使用する場合は、取付管口径を確保できる部材のみ使用すること。
- 直管部が4mを超える場合は、4mを超える毎にゴム輪接合を1箇所設けること。
- 取付管の良好な維持管理のため、曲管は60°以下の自在曲管又曲管を使用すること。
- 自在曲管は5°以上鋭角側への曲げて使用とし、曲げ無し及び逆折れは排水の滞留が生じるため不可とする。
- 自在曲管の振れ角に余裕を持つこと。
- コンクリート管への取付についてはヒューム管用2液性接合材（手塗りタイプ）を使用し、十分に圧着した状態で保持すること。

補強コンクリート

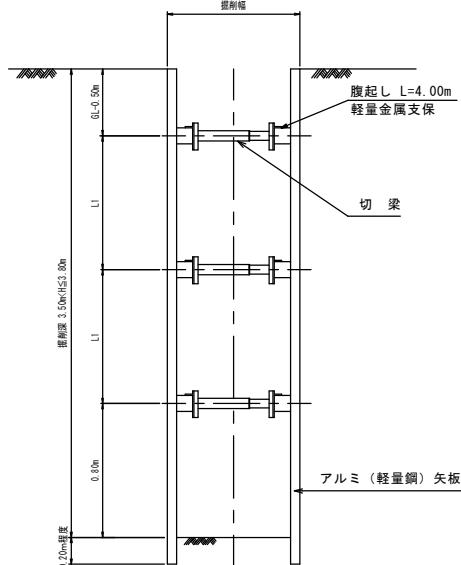


図名	雨水取付管標準図 (取付管 ø150)		
分類		図番	213
改訂年月日	令和 7 年 4 月 1 日		

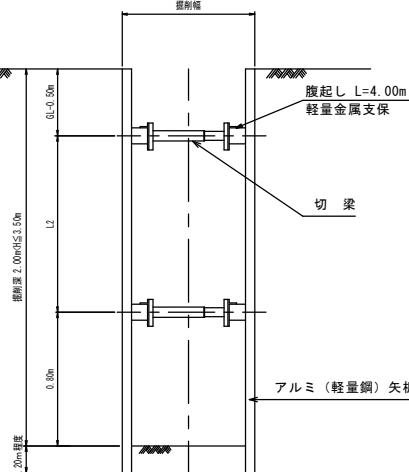
アルミ(軽量鋼)矢板土留設置工標準図

断面図

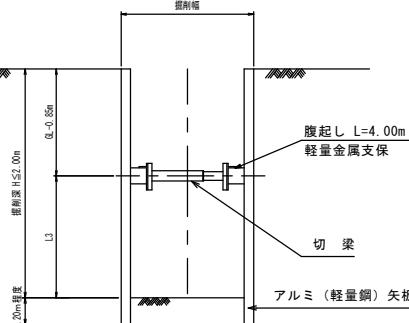
3.50m < H ≤ 3.80m



2.00m < H ≤ 3.50m



H ≤ 2.00m

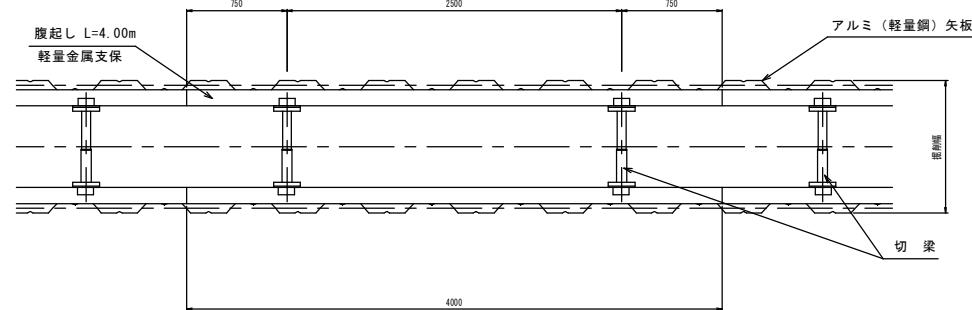


軽量鋼矢板・アルミ矢板設置基準

掘削深	支保工段数	腹起し	切梁
2.00m 以下	1段支保	断面係数 120cm ³ 以上	水圧式又はネジ式
2.00m より大きく 3.50m 以下	2段支保		
3.50 より大きく 3.80m 以下	3段支保		

軽量金属支保工材料表 (100m、1段当り)		
腹起し長さ 4m	腹起し材	50.0本
	切梁材	50.0本

平面図



軽量鋼矢板標準図(参考)



規格性能 (軽量鋼矢板)

矢板1枚につき	壁幅1mにつき
12.8 kg/m	38.4 kg/m ²

アルミ矢板標準図(参考)



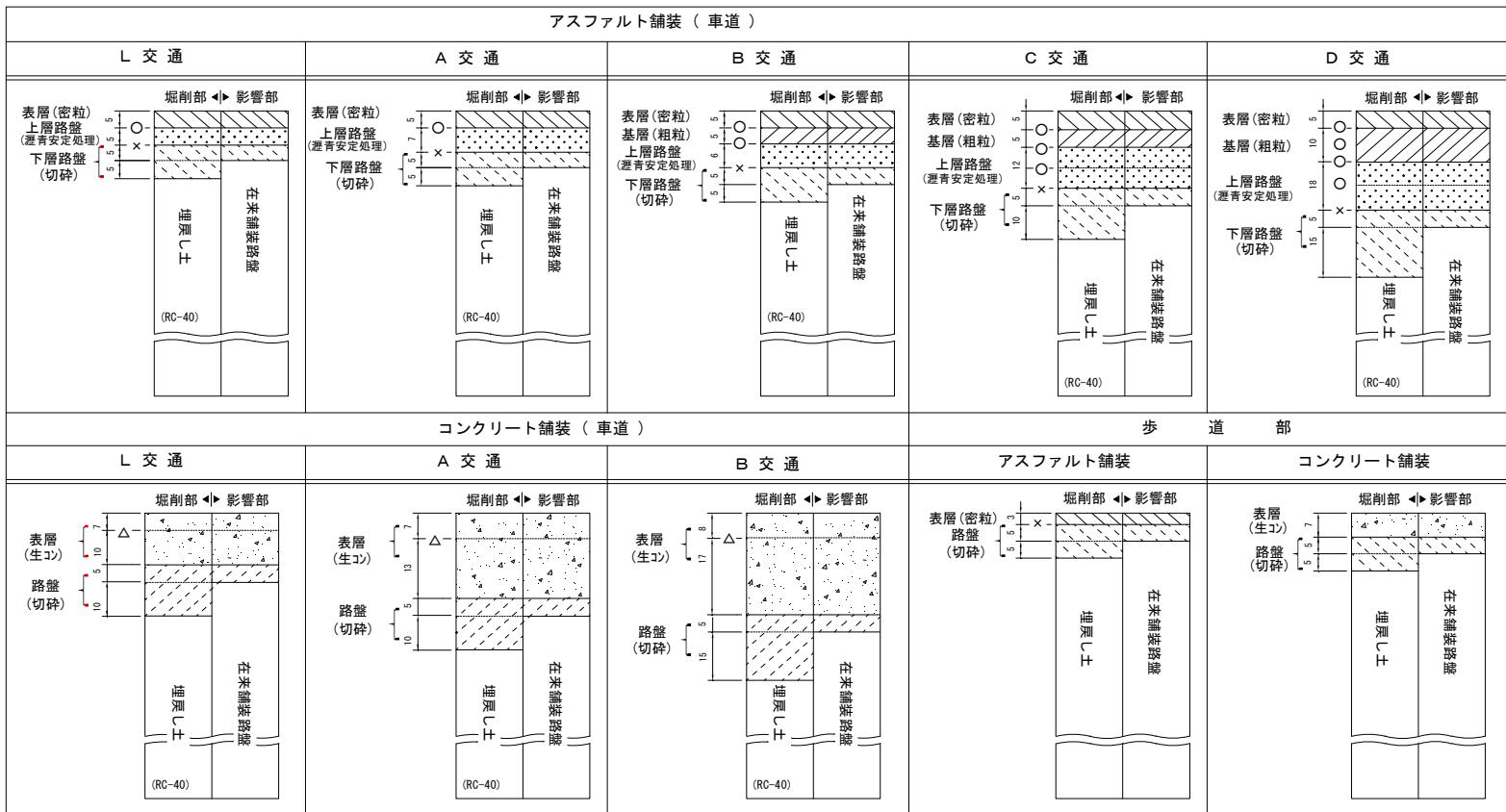
規格性能 (アルミ矢板)

矢板1枚につき	壁幅1mにつき
5.63 kg/m	16.9 kg/m ²

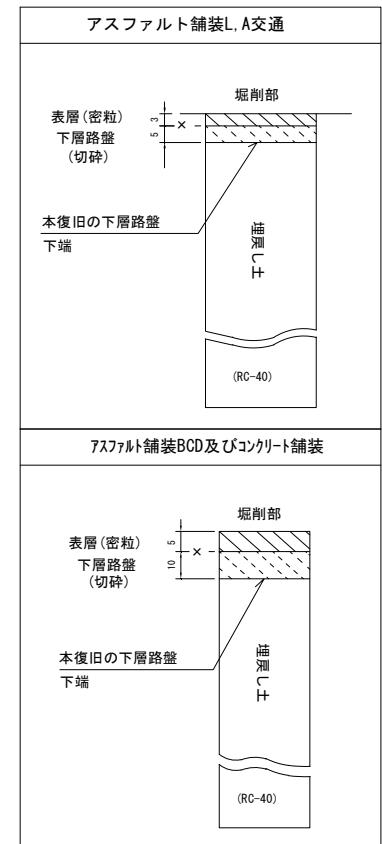
(軽量金属支保)

図名	アルミ(軽量鋼)矢板土留設置工標準図		
分類	A	図番	301
改訂年月日	平成22年4月1日		

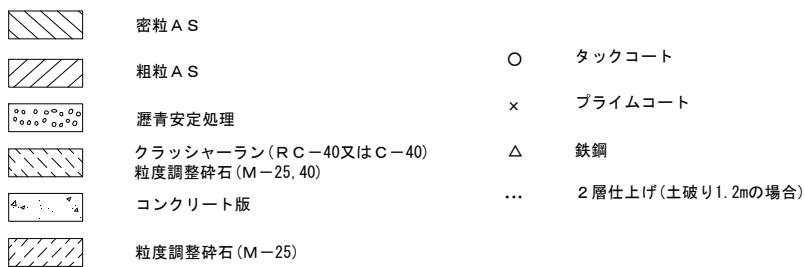
国道及び県道舗装復旧工



国道及び県道舗装仮復旧工



凡 例



※1 影響部の幅は30cm以上とする。

※2 車道の舗装復旧幅は1車線とする。

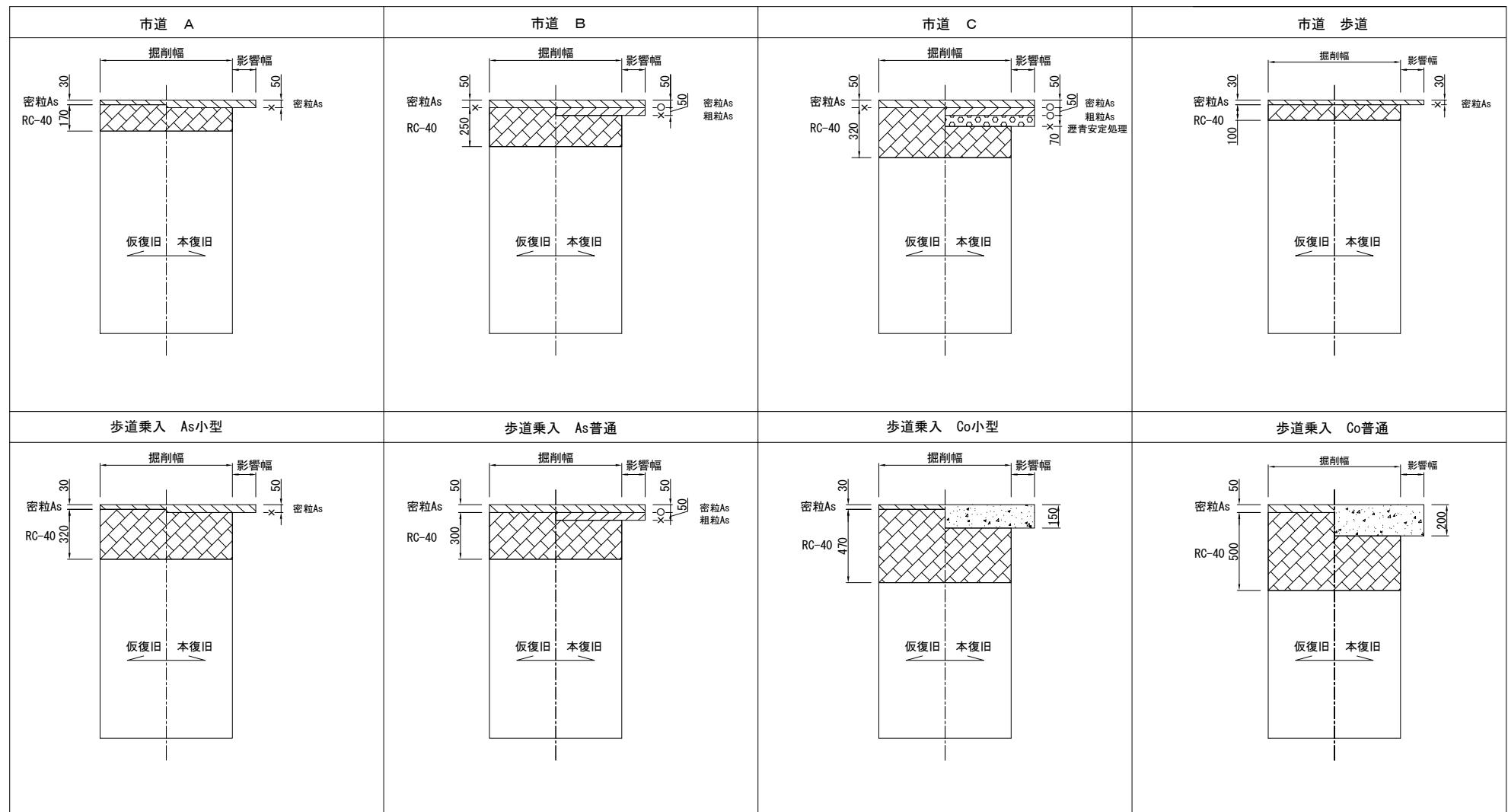
※3 歩道の舗装復旧幅は全面とする。

※4 その他状況に応じ道路管理者と立会を行い舗装復旧幅を決定する。

図名	舗装復旧工詳細図・国県道		
分類	H	図番	401
改訂年月日	平成 30 年 4 月 1 日		

アスファルト舗装	軽車両用 (A型) 歩道乗入部	中車両用 (B型) 歩道乗入部	重車両用 (C型) 歩道乗入部	<p>(凡例)</p> <p>土被り別舗装構成の表示方法</p> <p>かっこなし: 土被り1.2m (1.2m以上)</p> <p>〔 〕: 土被り0.8m (0.8mを超える1.2m未満)</p> <p>○: 混合A S △: 混合A S ●: 透水安定処理 ■: 軽度調整砂石 (M-25) □: クラッシュラン (RC-40 - C-40) ■: コンクリート版 ■: インターロッキングブロック ○: タンクコート ×: ブライムコート ---: 2層仕上げ</p>
インターロッキング舗装				
コンクリート舗装				<p>図名</p> <p>舗装復旧工詳細図・国県道(乗入部)</p> <p>分類</p> <p>H</p> <p>図番</p> <p>401-1</p> <p>改訂年月日</p> <p>平成 30 年 4 月 1 日</p>

市道舗装復旧図



凡 例

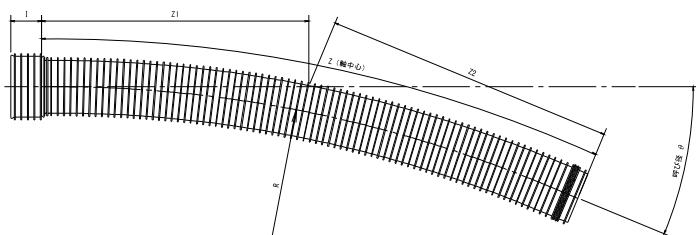
- タックコート
- × プライムコート

図 名	舗装復旧工詳細図・市道		
分 類	H	図 番	402
改訂年月日	平成 22 年 4 月 1 日		

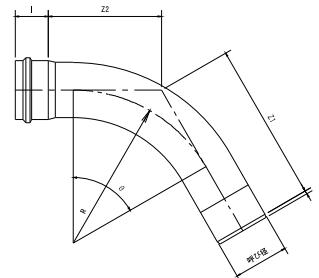
曲管標準図

S=1:10

曲管一般図(リブ管)

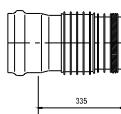


曲管一般図 (VU)

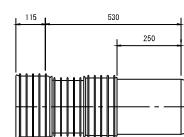


変換継手 (φ200)

VU受口ーリブ差し口



リブ受口-VU差し口



VU曲管寸法表 (φ200)

θ	Z1	Z2	I	R	b
5° 5/8	306	126	130	600	13
11° 1/4	336	156	130	600	13
15°	356	176	130	600	13

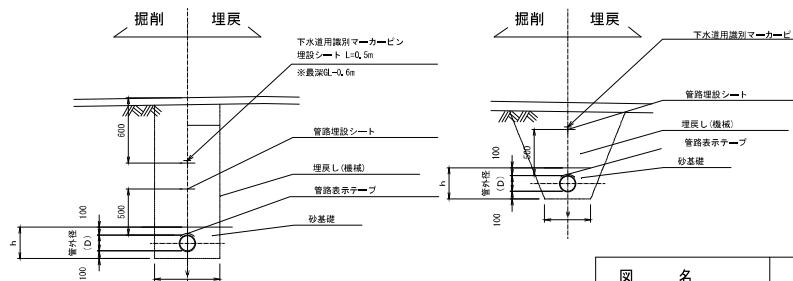
※R-6001± 0-15° 朱漆上木孔

土工標準断面図

リブ曲管寸法表 (φ200)

θ	z	$z1$	$z2$	l	R
22° 1/2	2160	1045	1140	120	5000

※ $\theta=45^\circ$ の場合は、 $\theta=22^\circ$ 1/2の製品2個を連続使用する。



※舗装部を掘削する場合は、舗装構成に
準じて復旧する。

※下水道用識別マーカーピンは、管路の屈曲部に垂直に設置する

※同曲箇所には、下水道用識別マーク-ピンの

本端面圧印には、下水道用識別、一方の
端部分を61から60cmの位置に設置する

たがし、土被りが50cm以上80cm以下の場合は

ただし、土被りが50cm以上90cm以下の場合は
筒頂部から20cm、土被りが50cm未溝の場合は

官頂部から30cm、上被りが50cm未満の場合は、籠の裏上に設置する

卷之三

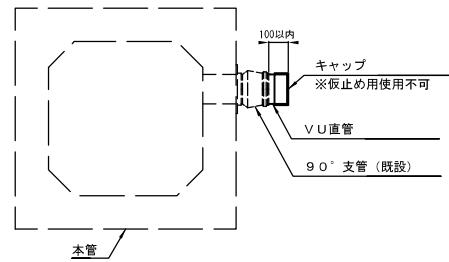
図名

010

改訂年月日 平成29年9月1日

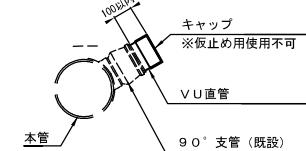
ボックスカルバート (支管)

G, L



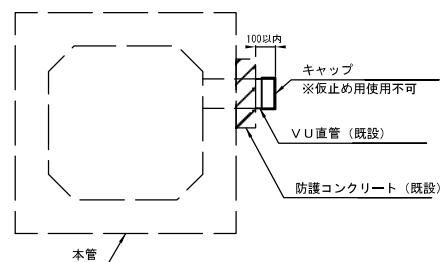
円形管

G, L



ボックスカルバート (防護コンクリート)

G, L



※注意事項

- 接着剤を確実に塗布し直管へ密着させ、キャップ部から漏水しないようにすること。
- 直管部は、既設支管又は既設防護C○からキャップを含め100mm以内とすること。

図名	取付管撤去参考図		
分類		図番	220
改訂年月日	令和3年4月1日		